

学級担任のまなざし 12

Okayama Prefectural Education Center

R2.6.23(Tue)

「一人一人の名前を呼ぶこと」

ある教員は、となりの先輩教員のクラスが気になっていました。自分のクラスと比べると、そのクラスはいつも明るく元気があり、どの子も自信をもって発言したり、活動したりする姿が見られて、「何が違うのかな」と感じていました。

自分のクラスにも活動的な子がいて、全体的に明るく元気があり、決して大変な状況ではありません。先輩教員からもよくアドバイスをもらい、授業などで同じような指導をしているつもりです。子どもも担任も違うので、違いがあるのは当たり前なのですが、それでも何か違いを感じます。それがどうしてなのか、わかりませんでした。

6月になり、そのクラスを1週間ずっと参観することができました。授業では、どの子もみんな何かしら発言したり、自分から動いたりして活動的でした。自分のクラスを思い浮かべると、賑やかさは同じですが、そのクラスには、全く発言しない子や、注意が散漫なままの子がいないことに気が付きました。

そこで、担任の動きを注意深く観察してみたところ、例えば、「かんださん、はい」と言ってプリントを手渡していました。「おはよう、かずひろさん」、「ちなみさんはいつもロッカーをきれいにしているね。」、「宿題がんばったね、けいこさん」というように、必ず子どもの名前をつけて声掛けをしているのです。些細なことですが、一人一人の名前をつけることで、その子どもとの距離が縮まり、大切にしてくれていると感じるのです。そんな教員の振る舞いに、子どもたちは感化されるのです。

このことに気付いてからは、子ども一人一人を認めることこそ、学級担任の責任だと思うようになりました。